

シルバー 江田島



第 15 号

平成12年1月1日

＜発 行＞

江田島町シルバー
人 材 セ ン タ ー

江田島町中央1-15-15
江田島町シルバーワークプラザ
TEL (0823)42-5211
FAX 42-5051



新年を迎えて

理事長 山佐 一男

明けましておめでとうございます。

皆さま方には、二〇〇〇年の記念すべき

良い年を迎えられたことと思います。

昨年は厳しい状況の中で、皆様にはほん

とうにお世話になりました。

お蔭様で業績も順調に推移しています。

昨年の特長は、SP事業による「ふすま

講習会」により新規事業として「ふすま・

障子作業」と、これに連動して「畳の表替

作業」をそれぞれ開始したこと、昨年の十

月に広島で行われた「全国まなびア」に

参加したこと、更に一般作業班の班長さん

による自主運営が設立以来、連続して実施

されていること等が挙げられます。

今年も続いて厳しい状況が予想される中

で、前進するためのき・つ・か・げ・づ・くりとして、

次のことを考えていますのでよろしくお願

いします。

(1) 竹炭・竹酢の本格的な製作を独自事
業として開発する。

(2) 四月から実施される介護保険制度に
関連して、家事援助事業等の拡大を図
り社会の要請に応える。

最後に、皆さまのますますのご健勝と
一層のご発展を祈念して新年のあいさつと
いたします。

新年の御挨拶



江田島町長

平木 重巳

シルバー人材センターの皆様、明けましておめでとうございます。心新たな気持ちで新春をお迎えのことと存じ、お慶び申し上げます。新年は二十世紀最後の年であります。輝かしい二十一世紀につなげるよう、新年を明るく元気に歩んで参りましょう。

さて、昨年は経済再生に向けて正念場の一年でありました。国も地方

明けまして

おめでとーいねーます



町議会議長

道口 昭信

平成十二年の年頭に当り、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

我が国は、社会・経済の進展に伴う生活水準や、社会基盤の著しい向上から、かつて経験したことのない高齢化社会を迎えました。これらに対処するため、豊かな経験や知識を生かし、仕事を通じて社会参加の輪

も総力をあげて努力しました。漸く景気回復への兆しが見えて来たかと思われます。勿論油断は出来ませんが、気持ちの上でもお互いが前向きに進んで行かねばと思います。

シルバー人材センターも理事長さん、事務局長さんはじめ役員・会員一体となってワークプラザを拠点に、活発に活動してこられたことに對し敬意を表します。私共行政も平成十一年度のシルバーへの補助金を例年通り予算化させていただきました。又シルバーの皆さんにお世話していただく公共施設の維持作業は、約三千万円の多額になっております。又、昨年には政府の追加景気対策として緊急雇用対策基金制度が決定し、本町は町内の美化・清掃作業をシルバ

を拡げ、生きがいを見つめる目的の下に、平成二年「高齢者能力活用協会」が発足されました。更に平成四年十月には現在の「社団法人江田島町シルバー人材センター」(以下「センター」という。)が設立され、法人化されました。現在会員数二三百七人を数え、事業実績も六千五百五十万円となっています。これも理事長、理事、歴代の事務局長及び職員の方々の努力の賜ものであり、そして何よりも会員皆様の団結と努力に對して深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げる次第であります。

御承知のとおり我が国の平均寿命は男女ともに世界一となり、人生八

十一歳までの皆様をお願いすることとし、昨年十月の臨時議会で可決していただきました。百万円余りの作業となっておりませんが、私共も国の施策に沿いながら、NPOであるシルバー人材センターの活力をいただき、町の活性化に努めているところであります。

高齢化時代を迎え、生涯学習や、生き甲斐対策のことが、色々と取り上げられています。日本人の平均寿命は世界一です。国連の「高齢者」の定義は六十五歳ですが、人生八十年時代の我が国では、六十歳や七十歳代はまだ現役であるという意識を確立すべき時代であると思います。

社会で介護の面倒を見るといふ介護保険制度も、いよいよ導入されま

十年時代を迎え、目前に迫った本格的な高齢化社会への対応は、豊かで、ゆとりのある二十一世紀を目指す私達にとりまして、緊急かつ重要な課題となっております。こうした中において、冒頭にも申し上げましたように、平成四年十月センター設立以来、一貫して、皆様には会社等を定年退職された後センターに所属し、かつて習得した技術や知識を生かし、高齢者の「社会参加」、「生きがい」提供の場として本センターが果たしてきた役割と成果は誠に大きく、意義深いものがございます。

また、当センターの趣旨と目的をよく理解され、高齢者に適した各種の仕事を提供されるなど協力されて

すが、元気な高齢者が増えれば増えるほど、介護保険料も安くすることが出来るし、社会保障制度の維持がやり易くなると思います。

江田島町の場合、シルバー人材センターの存在と活動が、地域全体の活性化に大きな役割を果たしていると思っております。年を重ねても人間は外に出ることが大切です。色々な手習いをしたり、サークルに入ることもいいでしょう。仲間が出来、体を動かせば生活に張りが出て来ると思います。その意味でシルバー会員の皆様に改めて敬意を表します。重ねて新しい年が、皆様にとってより佳い年であること、そしてシルバー人材センターの御発展をお祈りして、私の新年の御挨拶と致します。

きた江田島町や事業所並びに町民の皆様に対して、改めて敬意を表する次第であります。

町民にとっても、今やセンターの存在が意識の中に深く根づき、仕事の発注も年々増加するものと確信しています。

新年を迎え、当センターが今後とも更に飛躍され、名実ともに高齢者雇用対策の拠点として、江田島町の発展の重要な一翼を担われますよう期待するものであります。

終わりに臨み、会員皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げますとともに、皆様にとって最良の年となりますよう併せて祈念しまして新年のごあいさつといたします。

しまなみ海道

待ちに
待った年
一度の親
睦旅行。

今年は
九月二十
一、二十
二日の二
日間の予
定をもっ
て行われ
た。

まず小
用七時の
船で呉に
渡り、総
員五十二



栗林公園で説明を聞く会員

名が大型バスに乗車、国道三七五号線を一路西条に向けて走る。山陽道を小谷と鴻の池SAで小憩、ここで残念ながら雨が降り出し、天候的に幸先悪しと思うものの、車の中だからと自ら慰める。僅か五分で煙霧にむせぶ瀬戸大橋にさしかかり、高松を通過。十二時二十分、何故か中野うどん学校という食堂で、さぬきうどんとチラシ寿司に舌つづみをうち、再度眺望の全くきかない雨と霧の屋島で、それぞれが土器を投げて願いを祈る。屋島を十四時出発。三十分で栗林公園着。この公園は、昭和二十八年三月、全国で八番目に特

親睦旅行に

参加して

別名勝の指定を受けた回遊式大名庭園で、紫雲山を借景として、二十三万坪（七十六万平方メートル）を有する広大なもので、松が見事であった。売店からの女性が一時間にわたって案内してくれた。

十六時過ぎ今夜の宿である琴平温泉、琴参閣に到着。元気な人は直ちに金比羅宮の参拝に。しかし、大半はホテルで夕食の十八時三十分までに入浴をしたようである。

次いで、飛天の間で夕食宴会とな

り、次から次へとカラオケの希望が出され、二節までと制限、酒のまわりと共に宴は最高潮に達した。

翌二十二日は、八時三十分出発。善通寺ICから高松自動車道に入り、石槌山SAで小憩、いよ小松ICでおりて国道二九六号線を走って糸山公園着。来島海峡展望館で工事の展示を見たり、海峡を望みながら記念写真をとったり、各人思いのひとときを過ごし、十一時二十分、いよいよ車は、しまなみ海道へと入って行く。まず世界で最初の三連吊り橋の来島海峡大橋を通り、伯方・大島大橋、アーチ式の大三島橋を渡って雨の中を大山祇神社へ参拝。天照大

神の兄神である大山積大神を祀っており、海の神、武人の神として歴代の朝廷や武将たちから広く尊崇を集め、宝物館には全国の国宝、重文の武具の約八割が収蔵されているという。

ここで昼食を済ませ、多々羅大橋を渡って生口島に入り、柑橘類の香りいっぱいしのびのシトラスパーク瀬戸田で一時間を過ごし、あとは生口橋、因島大橋、尾道大橋を通過して小谷SAで小憩し、呉中央橋十八時十五分着。小用帰着十八時五十分。二日間にわたり会員相互の親睦を十分果たした旅行を終了した。

(S・S)

全国生涯学習フェスティバルに体験教室として参加

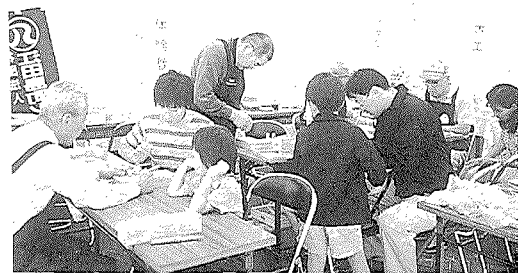
第十一回全国生涯学習フェスティバルが、広島県立体育館を主会場として周辺施設を利用し、十月七日から十一日までの五日間、盛大に開催されました。

これは、生涯学習に係わる活動の場を全国的な規模で提供することにより、広く国民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図ることを目的に、全国各都道府県を毎年巡回して行われているものです。

今回の広島県開催には、シルバークロニクルから、江田島からの

参加が唯一で、「竹細工の製作を高年齢者から学び、自ら作る喜びと、刃物などの工具を使うことで、

子どもの基本的な生活習慣を高めるとともに、高齢者であるシルバークロニクル会員と子ども達との世代間交流をめざす」をキャッチフレーズに、竹トンボ、鳩笛、バラ



ンストンボなどの製作指導を行いました。

平日は、小・中学校などの社会見学、休日には親子連れが訪れ、鳩笛、竹トンボ作りに取り組み、毎日六人から八人の会員が、昼食を摂る暇もないほどの多くの参加者でした。五日間連続で指導した会員も、「ありがたうございました」の挨拶に疲れも見せず、「家で作ってみようね」と元気に声をかけていました。

私達も竹細工の指導を通して、自らの生涯学習を深める営みとなったこと、当センターの「生涯学習、生涯現役」の役割を少しでも果たせたことを、参加された会員の皆さんは満足されたようです。

支える仲間

「最初に紙をはぎます。そして、ベニヤを拭き、そのあとサンドペーパーをかけ、古い紙をきれいにしておきます。そうしないと、古い紙が浮いてきて表面がでこぼこになります。次は糊づけ。むらなく糊をつけ、紙をはります。この時、角はしわが

九月六日、ワークプラザの作業室の襖、障子張りの作業の取材に行きました。私が訪ねた時は襖も障子もはりかえの最中でした。

襖はりの作業は半年ぐらい前から始められたとのこと。襖には紙とベニヤの二種類あり、作業の内容が違ふとのことでした。作業の手順は、

襖・障子はり

角にしわがよらないよう気を配ります



よりがちなので、それをつくらないうう気をつかいます。

最近ではベニヤの襖が多い。ベニヤは古い紙をはぐのに時間がかかるので、一日に四枚ぐらいしか出来ません」

と、作業の手を休めずに話してくれます。

〈紙〉

「紙の場合はまず枠をはずし、もとの襖紙をはぎます。そして、裏紙の破れているところは、補修して表面を平らにして襖紙をはります。この時も角にしわがよらないように気をつけます。糊が乾いたら枠をうちつけ、作業を終えます。一日に四枚が限度ですね」

メモを取りながら作業を見ていたのですが、実にスムーズに作業が進みます。『さすが！』と感じいました。

〈雪見障子に気をつかう〉

障子は隣の部屋。

「二人でやるより一人のほうが気楽なので一人でやっています。

まず、水洗いをして古い紙と糊をきれいにしておきます。この時、どこ



まで洗うのかを決めるのがむずかしい。というのは、常々きれいに掃除がしてある障子はいいのですが、そうでないのは洗うのに手間がかかり、洗い終わったあと、棧の色の違いが出てくることもあるからです。

アイロンではってあるのは、水ではとれません。アイロンをかけてはがします。そのあと水洗い。障子二枚でバケツ一杯の水がいります。はじめてのことで、最初はとまどいました。

紙をはる前に紙が黄色くならないよう棧にアクどめをし、糊をつけます。ハケ不要の市販の糊を使います。

いままでの仕事がばれて

十月七日、畳表のはりかえ作業の取材に出かけました。私が着いた時は畳床の端を切っているところ。

「ふつうは切りません。これは、他の畳とくらべて大きいので！」

「いつからやられているのですか」と聞きますと、

「四十二年まで十年くらいよそに出てこの仕事をし、江田島に帰って弾薬庫にはいりました。弾薬庫に勤めている時もアルバイトでこの仕事をやっていました。その頃はへりは手縫いでした。

昨年の三月、シルバ－に入会、そのうち今までの仕事はばれて、今年の四月からこの仕事をしていきます」

畳べりを縫う作業を見学。定規で

糊づけは、ついていない所のないようにうていねいにぬり、しゃがんで糊がまんべんなくついているのを確かめ、紙をはります。

むずかしいのは雪見障子。昔のものは枠にみぞがほってあるので楽ですが、最近のみぞのほってないのがある、はめるのに苦労します」

「手間賃ですか、手間賃は一枚五〇〇円から一、四〇〇円くらいです」

話しながらの作業は実に手なれたものでした。

ちなみに、襖は一枚（裏表）襖紙は別（注文に応じて）で二、〇〇〇円です。



畳べりの幅をきめ、そこに畳べりを置き、マチ針で両端を固定します。畳に凹凸がある時は、切り取った畳表の切れ端をあてて平らにするとのこと。畳べりの位置が決まると縫い機をあて縫います。縫っている途中でよれが出た時はよれを伸ばし、手縫いをします。縫い終わったら、縫い目にそうて畳べりを外にむけて折り、まず角をとめ、下側をヨ針でと

われら町を

めます。そして今度は手縫いで縫っていきます。その手際のよいこと。「一日に何枚くらい縫いますか」と聞きますと、「昼までに六枚から八枚」という答えがかえってきました。表替えの費用は、畳一枚、畳表の費用別で二、〇〇〇円とのことでした。

電話がなるとピリツとする

十月二十五日、ATM（現金自動支払機）日直の取材に出かけました。日直は山佐さん。

「勤務時間は朝九時から夕方五時まで。三年ぐらい前までは二人だったのですが、今は一人です」

「支払機にトラブルがおきたら、ここに電話がかかります。トラブルは現金が出ない、カードが入らない、明細書が出ないな



のですが、明細書が出ないことが多いです。広島市にセンターがあり、トラブルの知らせはここに集まり、そこから各地に指示が出ます。術科学校内のは新しいので明細書は二冊、役場のは型が古いので一冊、これがなくなるが多いです。

センターからの指令は一月に一回あるかなし。指令が来ると現場にとびます。支払機には鍵が十個もあり、操作が複雑で、手引書を見ながらやりますが、お客さんが待っている時は気がせいてなかなかうまくいきません。事務局の人は回数をたんでいるので気軽に行っているようですが、私達の場合にはそうはいきません。電話がなるとピリツとします。事故が二、三か月無いと手順を忘れることがあります。そういう時は角川さんに頼みます。気軽に来てくださるので助かります。

補修が終わると報告します。報告書には受信時刻、トラブルの内容、行動した人の名前、完了時間を記入します。同時に広島市のセンターに完了時間と作業者の名前を報告します。ATMの日直は七名、平日は午後五時から六時、土曜、日曜、祭日は一日、交替でしています。「退屈なこともあるでしょう」と聞きますと、「テレビを見たり、好きなことしたり、そんなに退屈を感じません」約三十分、話を聞いて辞去しました。

に「やかに」 「行ってらっしゃい」



山佐（山佐）さんから、朝、作業班が出ていく時の様子を取材してほしいと言われ、十月二十六日朝出かけました。

朝八時、事務局員が出勤してきます。まず事務局の掃除。その間に今日の障子のほり替えの注文の確認。

八時十分過ぎ、今日の作業に出る人が続々と機材置場前に集まります。機材置場前には救急箱とガソリンを分けていれるペットボトルが並べられています。

集まった会員には、今日の作業の内容がわかっているとみえ、トラックに作業用の機械や道具（草刈機、脚立、チェーンソー、ほうき、発電機、ガソリン、ガード、救急箱、ペットボトルなど）を積みこみます。その手際のよいこと、手慣れたものです。その間、事務局員は班長さんと作業内容の確認や救急箱やガード忘れがないか笑顔で確かめていました。準備の出来た班から出発。「行ってらっしゃい、気をつけてね」

と事務局員は声をかけ、手を振って送ります。そのあと、機械置場前を片付け、事務室にもどります。

山佐さんは「職員の勤務は八時半からはずなのに八時には出勤し、明るくみんなを送り出してくれる。なかなか出来ないことです」と言っていました。が、そのとおりでした。「今は涼しくなっているのですが、夏の暑い時は麦茶の冷えたのを持っていったらいいです。その準備がいらないかなただただ楽しかったです」と下平次長が話してくれました。

仕事で得た配分金収入の 確定申告について

毎年確定申告をされている会員はご存じかと思いますが、配分金は「給与所得」ではなく「雑所得」として区分されます。「六十五万円」の必要経費の控除が認められます。

配分金については、各種控除後の一定額以上は、確定申告をしなければなりません。

この申告について、くわしくお尋ねになりたい方は、役場税務課にご相談ください。また、この申告に必要な「配分金支払証明書」は、一月下旬には、就業会員さんにお届けする予定です。

（税金の確定申告は、二月十六日から三月十五日まで）

職域座談会

―福祉・家事援助班―

話し相手になることで喜ばれています

職域座談会三回目は十一月十九日、

福祉・家事援助サービスに従事しておられる方に集まってもらいました。

出席者は、三上さん(向側)、高橋さん(切串)、加藤さん(鷺部)、菅原さん(矢ノ浦)、久留須さん(向側)に、風呂井事務局長、森広報委員(司会)に記録の下谷でした。

事務局長 今日には福祉・家事援助をしておられる中での喜びや苦勞を話していただき、会員だけでなく、広く町民にも知ってもらおうという意図でこの会をもちました。来年四月から介護保険が実施されます。みなさんの仕事はそれとのかかわりも出てくるでしょう。センターでは、介護の問題についての講演会を鷺部公民館で行う予定です。それでは、よろしく願います。

司会 今日は、ざっくりばらんにふだん思っていることを言ってください。

高橋 週一回、親和園に行っています。

加藤 ヤクルトを週一回配っています。

三上 青木病院に行っています。

菅原 誠心園の送迎をしています。司会 家事援助的なことをしておられる方から、まず…。

高橋 九十二才の方の掃除、洗濯をしています。この方が外に出たがったので車に乗せてイズミに連れて行ってあげました。また、シーツが汚れたのにかわりがないので、家に持ち帰って洗濯してあげました。また、気が高く、話し相手がいません。それに私が他の人と話をすると、するなと言うし。私以外に話し相手がないので…。

司会 それが介護のむずかしさかもしれないですね。その人に合わせてやる以外にないでしょう。

高橋 友人がいないので朝から晩までテレビを見ています。外に出たがるのも無理ないと思うのですが。

司会 万一事故がおきたときのことを考えると、契約以外のことはしない方がよいのでは。気持ちはわかりますが。

加藤 親和園の人が青木病院に来ます。いろんな人がいますね。青木病院でも仲間と口論する人がいます。

司会 介護は資格のある人がやるので、シルバーからは、掃除、洗濯などの家事援助だけを考えてほしいのです。

加藤 介護だけでなく、買い物や頼まれることがある。介護保険となると、ヘルパーの時間が限られ、どう

しても家事援助が必要となります。それに、自分でお金を出さなくては。しばらく介護保険制度の内容について話が続く…

週に一回、安否をたずねるのが目的

加藤 ヤクルト配布をしています。本人や家族から何の連絡もなしに、しょっちゅう入院する人がいます。帰られると連絡があるのですが。入院されている時は持ち帰り、自分で飲み、退院されたらまとめて持っていきます。家庭が二十戸あまり、五人で配っています。訪ねると、お年寄りが話をしたが、一時間くらい話すことも度々です。



司会 これはボランティアで始めたことでしたよね。

加藤 週に一回、お年寄りの安否を確かめるために始めたこと。時間給を考えたとしても出来ません。最初は民生委員の方に誤解されましたが、今ではうまくいっています。お年寄りからはすごく喜んでもらっています。

司会 “そこに置いていてくれ”と出てこない人もいます。加藤 でも、声を聞けば、その人が元気かどうかわかります。今は、ありがたがってくれる人が多いです。ヤクルト配布のねらいは、お年寄りの安否の確認が目的でしょう。

高橋 嫁さんの悪口を言う人もいますね。

加藤 三回くらいは黙って聞くようにしています。その人は、今日は話が来てうれしい”と喜んでくれます。でも、こういう人は外に出たがりませんね。

送迎以外にボランティアで入所者の世話をしている

司会 誠心園の方はどうですか。

久留須 誠心園でボランティアをしています。お茶を配ったり、頭を洗ってあげたり。

菅原 お年寄りの様子も見ます。私達はいま、誠心園の職員や入所している人達からあてにされています。

司会 シルバーの仕事は送迎だけ。でも、それ以外に入所者の話し相手になってあげるなどのボランティア

活動、すばらしいですね。職員の方もきつと喜んでいることでしょう。菅原 入所者に痴呆の方がふえています。ボランティアのグループは六人、喜ばれています。

仕事はきれいにしましょう

司会 シルバーに対する意見はありませんか。

三上 事務局の人には特に言うことはありません。

加藤 シルバーの会員の仕事についていろいろ言われています。仕事がかれいに出来ていないと言われたこともあります。仕事はきれいにしよう、みんなに伝えることが大切だと思います。

司会 どういうことですか。

加藤 仕事の片付けをしないで帰る。また、煙草のポイ捨てもあると

のことです。これ

だと、シル

バーの仕事が減

るのではないかと

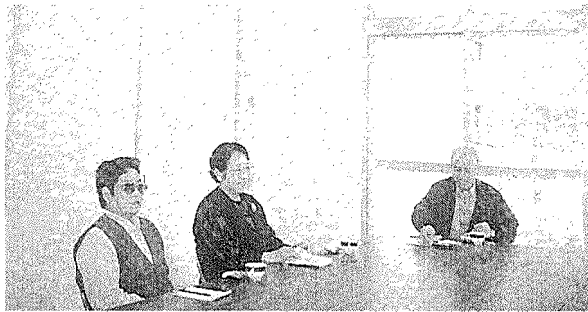
心配です。

高橋 会

員の中には、一日

出ればお金がもら

えるという考えの人



ようですね。

司会 シルバーの入会は自分で申し出る。働く意志のある人は入会できます。シルバーは雇用者ではありません。仕事の仲介役であって、当事者ではない。当事者は雇い主と作業に行く会員ですから。

加藤 働く量は個人によって違いがあります。それを承知でみんな仕事をしています。

司会 いま話されたような人がいれば事務局に伝え、事務局の方からその人に言ってもらったらどうでしょう。シルバーの仕事について、いろ

うと聞いておられるようですが、いい話はありませんか。

応急処置研修会は何度参加しても初心者心理

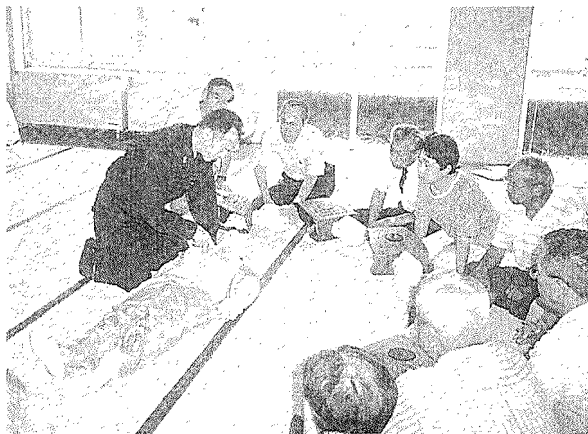
七月二十九日、江田島消防署救急隊員による応急処置研修会は、本年も盛大(参加者三十六名)であった。ケガによる出血、火傷等の処置は、人の生いたち、経験等で認識にズレがあったりする。

毎年実施する事により基本的処置を再認識する。

蘇生のための人工呼吸用ダミー人形、器具は年々進歩し、人体に近い構造のものが開発製造される。この人形三体を使って実地訓練をした。

参加者全員が体験出来た。呼吸器も十二組用意されていたのだ。時間を気にする事なく、自分に合った呼吸のしかたが出来た。この事が今後に生かされると思う。

コンロで天ぷらを揚げる場合は、



絶対にその場を離れない事。万一引火した時は、空気を遮断する事。そ

で飲んで、新しいものを買って持っていくようにしています。話が出来るのが老人には嬉しいようで、必ず会って話をしあえるようにしています。

司会 ヤクルト配布のきっかけは、ヤクルトを持っていけば訪ねやすいのではということで始まったのですよね。

加藤 お年寄は回数をつめば気を許してくれ、話をするようになります。

司会 今日は忙しいところ、ありがとうございました。

して、火柱が目の高さより高くなったら避難して、一一九番に通報する事。詳しい通報の仕方は字数に制限があるので省略する。資料がほしい人はセンター事務局に有るので参考にして下さい。

応急処置は、(1)ケガ、(2)骨折、(3)脱臼、(4)捻挫、(5)熱傷、(6)打撲、(7)こう傷、(8)乳幼児の熱、(9)釣り針を刺したとき、(10)目、耳に異物が入った時、(11)鼻血が出た時、(12)異物を誤飲した時、(13)日射病、熱射病、熱疲労等のそれぞれについて、事例にもとづいて説明を受けた。「知っておきたい応急処置」と題した説明資料が参加者全員に配付されたので、手許に置いて、折りにふれ目を通し参考にしたらいと思う。

なお、資料が入用の方は、事務局に申し出られたらいいと思います。

第49回江田島町文化祭に参加して

十一月三日、小春日和のもと、町恒例の文化祭が江田島中学校を会場として開催され、参加しました。回を重ね、今年で五度目、今やすっかり常連として定着し、会場のムード盛り上げにも一翼を担う強力なグループとなり、主催者側から高い評価を受け感謝されました。年々充実する出展コーナーと共に、シルバ－センターの存在意義を十分アピールした一日でした。

文化祭の目玉と自負するシルバ－センター展を南校舎三階に設け、各会員が、日頃から時間をかけ、丹精込めた手作りの逸品(細工物、置物、装飾品等)約三八〇点を展示し、即売コーナーとしました。どれも作者の温もりが伝わる力作で、中には芸術性の高い作品もあり、「ウワーすごい、まあー可愛い」と感嘆の声が終日会場にありました。

又、新しく参入した竹炭、竹酢に用途等興味の質問が多かったようです。今年は新しい試みとして、組木、竹細工の実演コーナー



を設け、風呂井局長、山本、浜本会員が気軽に対応し、関心を集めていました。売り上げは全般的に期待した程伸びず、会場が三階という悪条件(人の出入りが少なかった)が最後まで響き残念でした。

一方、親子創作コーナーは、校舎中庭で、山佐理事長外十数名が、例年どおり、訪れた親子に竹トンボ、竹笛の作り方を手馴れた小刀さばき

保健婦さんの
からだの
アドバイス

高齢者の健康管理シリーズX

生活習慣病予防のための基礎知識

Ⅱ かぜを予防しようⅡ

かぜとは、主にウィルスによっておこる上気道(鼻、のど)の急性の炎症のことです。かぜは、①病原体であるウィルスの性質によるもの②かぜにかかる人間側の状態によるもの③日常の生活環境によるものが、相互に関連して引き起こされます。今回は、③に注目し、かぜを予防する日常生活についてお話しします。

一、こまめに手を洗う。

かぜの基本的な予防対策は、手を洗うことから始まります。

二、うがいをする。

口の中にいる細菌やウィルスを洗い流す作用があります。

三、体をきたえる。

四、規則正しい生活を送る。

で親切に教えていましたが、今年は何故か参加者が少なく、例年の繁忙を予想して待機していた会員には、多少拍子抜けの感あり。毎年同じ催しでマンネリ化現象か?、来年は趣向を変えた改善が要ると反省しきり。綿菓子販売は、オープン直前になって、町福祉グループと競合することになり、一瞬氣勢に水を差す場面となったが、そこはもうベテランの綿菓子屋さん。当初の低調も、一つ売れるたびにジョークの入った楽しい掛け合いにつられ、午後から一転、

行列ができる程の盛況に。担当の下野、鍵本、角川会員、中島主事が代る代る大奮闘で、ご苦労様でした。三時二十分最後の砂糖投入し、超特大の綿菓子をもってニコニコ顔の子供さんを囲み大拍手で完売。福祉グループに悪かったなあー!!と思いやりの弁。

文化祭は、シルバ－人材センターが町民に評価を受ける大切な場ですが、会員相互の協力により、十分成果を挙げられたものと自画自賛して会場の片づけにかかりました。

(A・I記)

竹炭・竹酢液の生産開始

燃料以外の新しい用途に竹炭を使用することが一番好ましいといわれています。

土壌改良用、調湿用、脱臭用、入浴用、また、炊飯など調理用にも竹炭が効果が高いとされています。

竹炭を生産する際に採取する竹酢液は、強い殺菌作用があり、入浴やスキン・ヘアのケアに、また、野菜の病虫害の抑制に利用されています。

現在、一部会員さんが試作しているものを国の奨励金を受けて、本格的にセンターの独自事業として竹炭や竹酢液の生産を進めたいと計画しています。

センターでは、この竹炭等の生産に従事する会員さんを募集しています。希望される会員さんは事務局ま